



医療・介護総合法の府民への影響大！国民のいのちと暮らしを危うくする総合法を廃止しましょう！

ちょっと前の話で恐縮ですが、「福知山健康友の会」と「福知山の医療・福祉を良くする会」は、6月福知山市議会に「安心できる介護保障を求める請願」を提出。日程的には、医療介護総合法案の国会審議が大詰めを迎えるなかでの請願提出となったため、制度改悪の「実施中止」を求める取り組みとなりました。6月定例会の日程では、請願の委員会審査は19日と決まっていた。その前日、参議院で法案が強行され、請願審査当日の主旨説明では、「国会では法案が強行されたけれども、この制度改正が実施されれば、市民の暮らしや介護に重大な影響をもたらされる事は明らか。市議会として、改正法の『実施中止を求める』という事で、ぜひ、国に意見を上げてもらいたい」と強く要請することになりました。

請願の主旨説明と請願者に対する質疑では、医療介護総合法案の強行による介護保険制度改悪の影響は、福知山市の場合、利用料負担が2割になる所得階層の高齢者は約6000人余り。政府・厚労省の「負担できる」との説明は国会で撤回されたのに、そのデタラメで過剰な負担増の影響がこれだけの人に及ぶ。また、「要支援」の人は認定審査を受けた人の21.1%に上り、

いわゆる「要支援外し」が強行されれば、多くの人が専門的介護を受けられず、軽度認知障害の重度化にもつながりかねない。など、地域に深刻な被害をもたらす改悪であることを訴えました。

審査の結果、請願は不採択となりましたが、傍聴に参加した人たちの中からは、さらに運動を強めていこうという力強い声が上がりました。引き続き「実施中止・廃止」を求める運動を大きく広げていく事が重要です。



宣伝カー看板一新。アメリカの戦争に巻き込まれる集団的自衛権行使反対の世論を広げましょう！

7月1日に安倍内閣の集団的自衛権行使容認の閣議決定以降、組合員や府民の声は、「戦争は嫌だ」「子どもを戦争で死なせたくない」と反対の声が大きくある一方で、「日本が外国から攻められたら困るし、しかたない」など、集団的自衛権の意味を間違えて理解している人も多いです。いまの問題を正確に、広く、組合員・府民に伝えていきましょう。人類の英知である日本国憲法を守ることこそ、いま大事だと。

森田しのぶさんが全日赤の委員長に選出されました！

前京都医労連委員長の森田しのぶさん（第一日赤職労）が、全日赤第69回定期全国大会（～14日）で、全日赤（日赤の病院や施設などで組織する組合）の執行委員長に選出されました。森田さんは、「大任で、とても大変ですが、京都で学んだことも活かして頑張ります」と。身体に気をつけて頑張らしましょう。

